The Japan Society of Educational Sociology

「かわいいおばあちゃん（その１）」
――現代女子大学生における「かわいい」の語法――

小原一馬　(大阪外国語大学)

本発表は、現代の若者、特に女子のライフコースのイメージの変化に関して、「かわいいおばあちゃん」をキーワードとする一連の調査・研究の発表の初回となる予定である。

本発表では、現代女子大学生における「かわいい」という言葉の語法、特に、従来「かわいい」という形容がほとんどもちいられなかったと考えられる年上の男性、中高年の女性（特に両親、おじいちゃん、おばあちゃん）に対する「かわいい」の語法についての調査結果を示す。

調査対象はX大学とY大学で教職科目の教育社会学を受講した女子学生１１０名（X大学３８名、Y大学７２名、１８から２０歳）である。出席者の回答率は９０パーセント程度であり、うち性別の無記入であった２例と年齢が２５歳以上であった１例を除いて分析している。X大学は共学であり、調査対象は文学部と社会科学系学部に所属している。Y大学は女子大であり、調査対象は文学部と家政学部に所属する。

調査は質問紙配布により行い、即日回収した。質問紙の見本は発表当日に配布する。

質問項目としては、１:同年代あるいはそれ以上の男性、２:中年の女性、３:お年寄り、４:お父さんお母さん、のそれぞれについて、A:そうした対象をかわいいと思うことがあるかないか、B:かわいい＊＊（例えばかわいい中年女性）のイメージ、C:かわいい＊＊について個人的にどう思うか、D:そうした対象に対して「かわいい」と感じた時、いうのをとどめることがあるかないか、E:とどめることがあるのであれば、とどめずにいってしまうのはどういう場合か、F:普段はかわいいとは思えない＊＊に対して、かわいいと感じることがあるかないか、あるとしたらどういう具体的状況か等をたずねている。B、C、E、Fについては選択肢を用意せず、自由に回答してもらった。

調査結果として、１の「かわいい同年代あるいはそれ以上の男性」についてから。

AとCに関しては当初の予想通り、ほとんどの女子学生が、同年代あるいはそれ以上の男性を「かわいい」と思うことがあり（92%）、さらにその多くが肯定的に評価している。

ただしそこでいわれている「かわいい男性」が、そもそも何を指しているかは人により様々であることもわかった。質問Bの「かわいい同年代あるいはそれ以上の男性のイメージ」の回答として多かったのは、「童顔」など見かけが子供っぽいことや、しぐさの子供っぽさ、そして「無邪気」「素直」「不器用」「一生懸命」「天然ボケ」など子供に通じるような性格の純粋さだった。しかし同時に少なからず見られたのはかわいい年上の男性のイメージとして、その人の普段の性格とのギャップがあった場合を挙げる回答であった。すなわちこちらが質問項目として用意したFのような状況である。こうしたギャップ系の回答パターンとある種似た回答パターンとして、質問Cで「時々かわいいなら良いけどいつもだとイヤ」というような限定的肯定の回答パターンがあった。この二種類の回答パターンは、年上の男性がふと見せる子供らしさ（弱さや純粋さなど）について肯定的だという点では共通している。その一方で、限定的肯定回答パターンでは、「かわいい」に否定的な意味合いも含めているのに対して、ギャップ系の回答では、「かわいい」を常に肯定的な言葉として捉えている――年長の男性がいつも子供っ

NII-Electronic Library Service

The Japan Society of Educational Sociology

ぽいのは「かわいい」というよりは「気持ち悪い（キモイ・キショイ）」―――という違いが見られる。(もっともこの二つのパターンの中間的な回答も多く見られた。)

次に２の「かわいい中年の女性」について。

質問 A では、１の年上の男性の場合に比べると「かわいいと思うことがある」という回答は減るが（74%）、質問 C でかわいい中年女性に対して否定的な回答はほとんど全くみられず（3%）、多くが「自分もそうなりたい」と述べている。かわいい中年女性のイメージとしてよく挙がったのは、若若しくて、小柄で声が高く、明るく朗らかで、いつもにこにこしている、というようなものだった。実際に中年の女性に対してかわいいと思うことがあるグループでは、「自分たちと趣味関心が共通し、きさくで活発でちょっとおっちょこちょい」というイメージであり、実際に中年の女性にかわいいと思うことのないグループでは、より古風で幼いイメージが強いようだった。ただし前者のグループでも、おっとりとした天然ボケのイメージが挙がっていた。

また質問 D のかわいいと思ったときに、それをそのまま言ってしまうという者の割合は、両親に対する場合と同様特に高く、それぞれ６６％、６４％だった。

次は３の「かわいいおじいちゃん、おばあちゃん」について。

お年寄りをかわいいと思うことのある割合は、やはりとても高い(86%)。また、かわいいおじいちゃん、おばあちゃんを肯定的に捉える率は最も高くて、やはり自分もそうなりたいと答える回答が多かった。

イメージとしてはやはり、CM や TV 番組の影響を強く受けていると思われる回答が目立った（きんさんぎんさんや、おじいさんおばあさんが二人で手をつないで歩いている、洗剤の CM、「さんまのからくりビデオ」など)。

全体的には、優しい笑顔で縁側でひなたぼっこをしてくつろいでいるというような回答が多く見られたが、個々にはより詳細で具体的な回答もあった。

最後に「かわいいお父さん、お母さん」についてだが、自分の両親についてかわいいと感じる割合は半々程度だった(45%)。かわいいお母さんへの肯定的評価の割合は、２の中年女性に対するものとほぼ同程度でかなり高い。かわいいお父さんについては、否定的回答(「そんなお父さんイラナイ」など）もかなり多かったがそれでも、肯定的回答が大きく上回った。

また自分の両親に対してかわいいと感じることに対しては否定的であっても、将来自分自身が築く家庭については肯定的だとして、それらを区別している回答も見られた。今回の調査の質問文はそのような区別をしていなかったので、もしそのような区別をするよう質問文を変更していれば、こうした回答はかなり多かった可能性がある。

かわいいお父さん・お母さんのイメージは、1 のかわいい年上の男性や２のかわいい中年女性と共通する点も多かったが、それ以外に家族に対する愛情表現について言及する回答が特に多く見られた。両親のお互いに対する愛情表現や、子供たちに対する愛情表現などである。

これらの結果から、「かわいい」という言葉が、人により対象により、かなり異なったイメージで用いられていることが分かった。

データの詳細と各質問間の相関関係などについては、発表当日に資料を配布する。

NII-Electronic Library Service